

～ヒップ・ボンボン(HIP-BON-BORN)～
(新生児のお祝いダンス)

有りそうで無いダンスイベントの提案
2016年5月5日静岡県よりスタート
2016年よりプレススタート開始

2016年 2月

LiveHouse浜松窓枠

上嶋 常夫

連絡先:info@madowaku.com

電話:053-415-8050

報道各位その①

提案者

・弊社は浜松市内においてLiveHouse浜松窓枠を」運営し、その傍ら浜松市より、水窪町の廃校をお借りし、NPO法人ミナの森プロジェクトを展開しています。

自転車に乗れない子どもたちに対し、自転車初乗り教室を開く、3年間で500名以上の子どもたちを指導しました。

また、去年は絵本豆わたしを刊行し、お箸の持ち方指導を通し、しつけの問題を市内小学校にて進めています。

提案概要

- ・ヒップボンボン称し、新しいダンススタイルの開催(若者が街中で踊ることが無い)
- ・新生児が歩き始めて「初めてのダンス」を地域の皆さんでお祝いする(新生児をお祝いする行事が少ない)
- ・遠州(静岡県)発として全国へ展開する(静岡県から全国へ静岡の文化を発信する)
- ・ダンスステップの全国から公募する(全国公募により静岡県のイメージアップ)
- ・インターネットにて選考も様を随時発信する(若者主導による展開を図る)
- ・県内のメディア各社の応援をいただく
- ・金融、企業との連携も図る

報道各位その②

関連事業の展開

・ヒップボンボン商品の開発

●ヒップボンボンで、提案できること

例1: 浴衣、下駄、巾着、髪飾り、美容など一連商品の連携

個々での展開より複合での展開が、各商品の価値を上げる

例2: 商店界、自治会と他の業種(工業・建設業・林業・農業)との連携

地域に残る伝統工芸品、伝統食品などの商品開発を他業種に依頼する

例3: 他業者よりの商品開発の提案

県内の事業所では、一般に馴染みのない商品を製作しています、これらの商品と連携することにより新たな商品開発が見込める

●ヒップボンボンから生まれるもの

- ・新生児をお祝いすることにより、地域コミュニティの復活
- ・新生児のお祝いを若者主導ですることにより若者と地域がつながる
- ・新生児をみて、子どもの可愛さの再認識
- ・外で遊ばなくなっている、子どもたちに外で遊ぶ楽しさを伝える

取り組む目的と概要その①

• 音楽業界の新たな提案

音楽の持つパワーは計り知れないと感じています。誰もが唄に感動し身体を躍動させます。しかし、今、街中で踊る機会はありません。ごく最近まで盆踊りが、その任を担っていましたが現在は見るのが減り、参加する若者は少なくなってきました。

そこで、誰でも参加できるダンスをと考えました。「ヒップ・ボンボン」と称し、櫓の上ではDJブース、楽曲・振り付けは各レーベル・プロダクションより提供していただきます。

• 地域社会の問題解決

地域社会の在り方が変わり、地域との関わりを持たない若者が増えています。その反面心の拠り所を失い、孤立するという現象が起きています。若者中心の、音楽イベントを企画することにより、地域にとけ込め易くなります。街中の賑わいも創造します。

• 少子化問題の提起

本企画の「ヒップボンボン」のボン「born」は生まれるを表しています。歩き始めた新生児のデビューを地域全体でお祝いします。地域で新生児のお祝いをする事により、命の尊さを感じ、家族・地域の大切さを感じる機会とします。新生児とのふれあいにより、結婚・子育てに繋がる事を願います。

取り組む目的と概要その②

☆地域社会の新たな絆の創生

近年、お祭りや町内行事などに参加する人の数が減少傾向にあります。特に若い年代層では、地域行事への関心が薄くなっているように思います。人間関係が希薄になっている現代、地域のつながりが大事だと考えます。

年代を超えて地域を支えていこうとする気持ちを形成するため、若い年代を中心に参加できる「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」を提案します。

「ヒップ・ボンボン」とは、共有するダンスステップを考案し、誰でも参加が可能なダンスで地域の新生児(歩き始めた新生児)をお祝いする。

「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」のテーマ曲を皆さんで共有し、それとは別に各地域のオリジナル溢れる曲を地域の曲として育てていきます。

小学生(低学年・高学年)、中学生、高校生、保護者で組んだダンスユニットであったり、同年代のグループであったりと年代を超えた絆、さらには地域の絆をつくっていきます。

1ユニット(約10名)を、子供・保護者・お年寄りの3世代で構成し、創作した振り付けを披露します。発表に向けて打ち合わせをしたり練習したりする中で、地域内交流を図ることができます。子供会や夏祭りなど町内行事で発表する場を設けることで、低迷する地域の組織や催事を盛り上げることができます。

それが、町の賑わいと親睦・絆を深めることにつながります。

取り組む目的と概要その③

☆子育て支援の輪を広げる

「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」のお披露目の場では、新生児の披露を行います。赤ちゃんの登場で、イベントも大いに盛り上がると思われれます。

自分の地域に誕生した子供を知ること親しみが沸き、地域のみんなで育てていこうとする気持ちが生まれます。

さらに、「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」によってお祝いされた赤ちゃんが成長し、ダンスを覚えて参加するようになると、今度はその子供が地域の新しい命をお祝いすることになります。

このように、地域住民が新生児と触れ合うと地域に興味をもつようになります。すると地域が子育てに関わるようになります。

この連鎖が将来、町の賑わいと、歴史・文化の継承につながっていくものと考えます。

こと、「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」の発祥地である遠州地区においては、毎年5月3・4・5日は「浜松まつり」があります。「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」も新しい催事のひとつとして普及させていきたいと思ひます。

今、少子高齢化が社会問題となり、出生率を上げようと様々な施策がとられています。

本企画は「この時代に生まれてきた尊い命を、地域を挙げて大切に育てよう」という啓蒙活動の一環となることを願ひ、創作しました。

「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」とは？

HIP-BON-BORN(生まれる)

1. 新しいダンススタイルの創造(盆踊り風)
2. 新生児のお祝いを地域で共有する
3. 新生児を若者がお祝いする事により命の大切さを実感する
4. 新生児との触れ合いにより結婚や子育てを意識する
5. 若者が主役のイベントにより地域の大切さを実感する
6. 若者が遊びの中から手軽に参加できる
7. 4世代が楽しめ少子化対策として提案する

このような古くから伝わる盆踊りを、新しい観点から創作する

LiveHouse浜松窓枠がコーディネートし、関連行政と連携する

ネットワークモデル

ヒップ・ボンボン・初めてのダンス実行委員会

音楽関連事業所

メディア

各種団体

行政・国・県・市町村

ダンス
ステップ公募

2月ステップ発表

静岡県にて
プレスタート

本スタート
静岡県内へ
発信

実行委員会設置

関連事業所募集
告知開始

「ヒップ・ボンボン初めてのダンス」運営システム

☆共有する踊りの製作

- ・全国の皆さんと一緒に踊れるダンスステップの提案
- ・初年度は3～5のダンスステップを提案する
- ・作品を公募し、実行委員会や一般参加のオーディションを開催する
- ・選考されたダンスステップを全国へ発信する
- ・楽曲は公募しオーディションにて決める
- ・選考された楽曲・振り付けは実行委員会が管理する
- ・著作権は作曲家・作詞家が権利を持つ
- ・2年度以降も同様に新たな作品を公募する

「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」運営予定者

実行委員会

委員長:

委員: 社会学者

委員: 子育てネットワーク

委員: 音楽プロダクション

委員: 音楽プロデューサー

委員: マーケティングプロデューサー

委員: 企画編成

委員: 総合プロデューサー

上嶋 常夫

タイムテーブル

オフィシャルステップの公募

2016・2

ダンスステップオーディション
開催
審査・決定
2016・2

メディア
広告・告知開始
2016・2

全国ネットワーク作り開始
2016・9

音源審査開始
県内で活動するアーティスト
2016・3

2016・1
静岡県実行委
員会開催

2016・3
プレスタート
開催確認

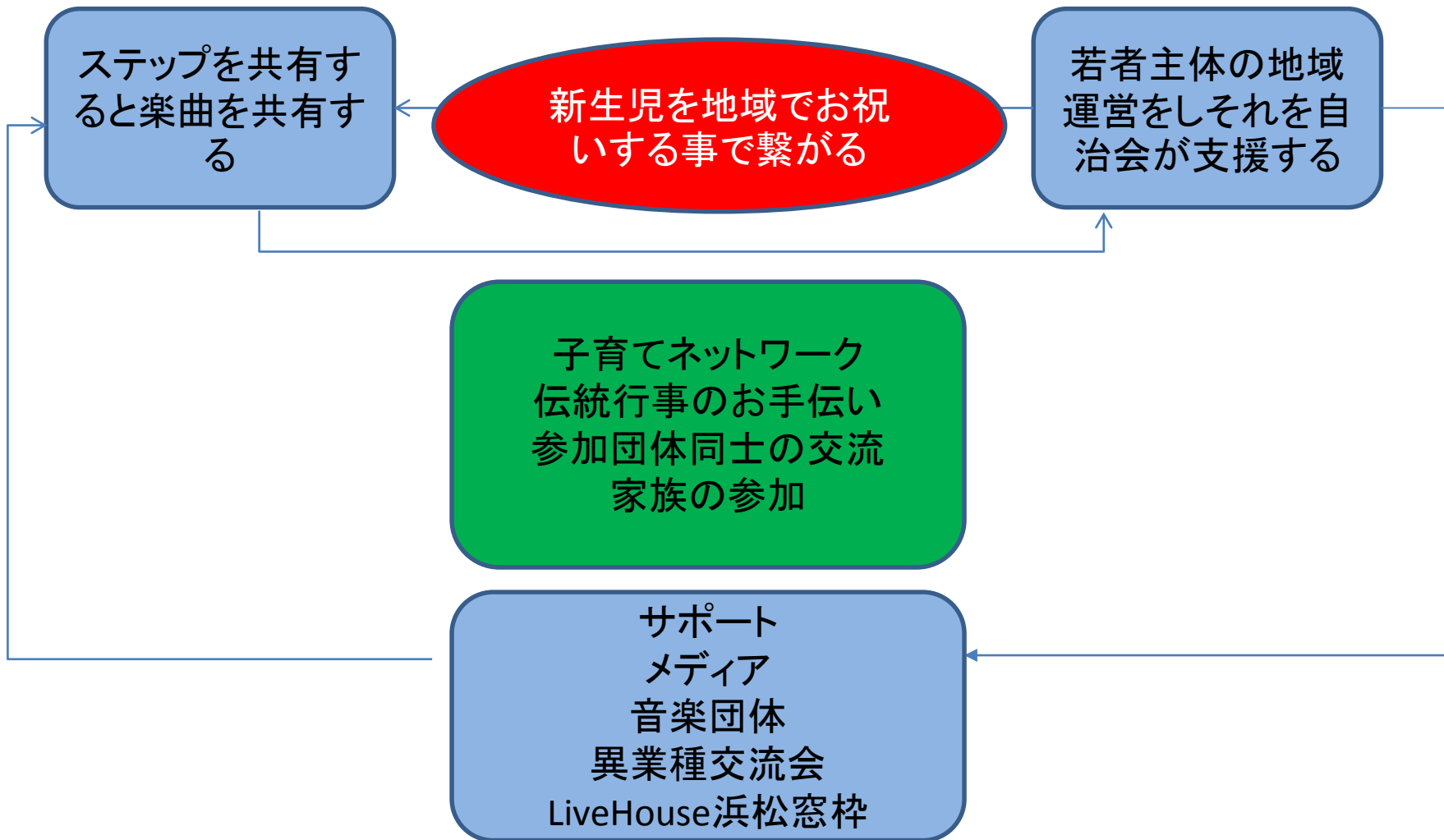
28・1
静岡県にて
プレスタート

28・5・5
本スタート
全国へ発信

27・9
関連事業所募集
告知開始

27・11
第1回実行委員会

「ヒップ・ボンボン・初めてのダンス」のつながり 初めてのダンス



NPO法人ミナの森プロジェクトは、
社会的課題の解決を、
地域ビジネスを通して取り組みます。



課題A

山村と都市を結び
持続可能な地域づくり

- 背景 ★自然・環境意識が希薄・感謝の気持ち不足・効率優先主義
- 解決の手段 【①廃校活用拠点づくり2012年浜松市天竜区に設置】【②自転車事業】【③森と都市を結ぶプロジェクト】【④300年の森再生】

課題B

若者が自信を持って
働ける力をつける

- 背景 ★社会・組織に溶け込めない若者増加・成果主義偏重・自己中心
- 解決の手段 【①ミナの森プロジェクトでの働く場】【②中間就労の機会の提供】

課題C

地域文化をベースに
仕事づくり

- 背景 ★地域経済の衰退・自分のまち・仕事への誇り減少・未来への不安
- 解決の手段 【①映画果てぬ村のミナ2012年上映開始】【②方言をキャラクター化「言子たち」】【③自転車活用事業(自転車初乗り指導教室・自転車の駅・パーククライム)】【④日本お箸道(豆わたし)】【⑤手描き文化アニメパラパラBOX】